

100キロマラソンじゃあ〜なる

5243

997-0826 鶴岡市美原町30-24

☎0235(22)3669

090-2986-7724 携帯



塞

1984年9月15日第1号発行〜

2009年11月17日

3日連続で雨と風が続いた。木枯しの匂いとおりの、野の落葉樹は殆んど散ってしまい、荒涼とした風情が残るのみです。雨に濡れた落葉を踏み、厚手のウィンドブレーカーを着用して雨の中をランニングするものの直ぐに負けてしまい早々に撤収してしまいました…トホホ。

そして今日は17日、やはり雨空で、おまけに寒い。これまでだったらこの位の降雨は雪になっても不思議でないし、もしかすると11月のドカ雪もあり得ること、やはり暖冬の化貞向は否めない状況ですね、雨よりも雪の方が覚悟を決めて走り出せる、雪だったら寒さだけに耐えれば良いのが、雨は加えて濡れることに抗しなければなりません。この氷雨老骨には沁みるものです。今まで雨が続くのだとトンネルに行って走るしかない。

川越えず今日は映画観賞の日という事に致します。松本清張生誕100年記念の「ゼロの焦点」でも観ることに致しましょう。既に原作を読んでいるのであまり映像を通してのものを期待していませんが…。

11月5日 Greyhound Bus で Charlotte に向かう日だ。切符は日本で予約して居たが、券は乗り場で一時間前に受け取ることに成っていたので、6時に市内から其方に向かう。空港の手前にあり、バスを乗り換える必要があると言われているが、Internet の地図検索では歩ける距離である。バスの乗り換え時間を考えると、歩いた方が早い。道を尋ねながら停車場に付くと、未だ開いていなかった。20分ほど待つと男が遣って来て、中に入り、切符を貰う。帰りは明日夜10頃の予定であるが、飛行場まではどうやって出ると訊いてみる。タクシーで行けばいいが、此処に停まって居なければ、呼んでやるという。パキスタンから数年前に移住して来たと言った。其の前は日本の某大手電機メーカーから家電を輸入して、日本にも何回か来た事があるとも言っていた。

Greyhound には何回か乗った事があるが、其の停車場は前近代的である。単なる乗り継ぎの場所であり、

何時間も待ち合わせ時間がある場合があるが、客の快適性などは全く考慮されていない作りと成っている。バスは10-20分遅れるのは当たり前だ。地方のバス会社とも提携し、全国ほぼ何処でも安価に行ける取り得だけで存続しているのであろう。この辺りでは Southeastern Stage と提携している。僕の乗ったバスもこの会社のものであった。定刻8時45分のバスが発車したのは9時過ぎであった。

2時間余り走り、Columbia に着く。此処も町の中心がから離れた不便な所だが、目的地の Charlotte 行きのバスが来るまでは4時間近くある。7キロほどの荷物を担いで町の中心地まで歩く。此処は州都であり、サウスカロライナでは最大の都市だ。州の庁舎がほぼ町の真ん中の岡の上に立っている。

銀行があるので、Lori に借金を返す Check を用意して貰う為に立ち寄る。大手都市銀行であるが、この銀行の口座が無ければ、Check は切れないので、郵便局に行く様にと言われる。郵便局に行くと現金を持って来ればチェックは用意出来ると言うので、先ほどの銀行に戻り ATM で300ドルを引き出し、局に戻る。300ドルの名義人指定の銀行渡り小切手を切って貰い手数料1ドル、封筒切手代約1ドルを払い、送ることにする。普通便で良いと言う。Lori はこの便を11月9日(月)に受け取ったのであろうか、此方の10日その旨メールが入っていた。

送金の手続きの後には町の古い住宅街を見て回る。木造の大きな家が何軒か残って居り、なかなか壮観である。その昔、奴隷制を背景に南部が経済力を持って居た時代の産物なのであろう。

バスが走り出すと緩やかに波を打つような地形の中を走る。幅広い道の両側には緑の森が延々と続く。幹の黒い松が大半であるが、落葉樹の葉も未だ青い。一時間半ほどで Charlotte に着く。巨大な高層ビルが何10棟か建つ不思議な町だ。早速は宿を探す。何処も空き室は無く、満杯だという。マリオット系3軒、Hilton 系2軒、Ritz Carlton も回ったが同じであった。暗くなって居り、腹も減って居るので、先ず腹越しらいをしてからと、Hooter というレストランに入る。若い Cheer Girl 姿の接客係が注文を取りに来る。可也大きな店で如何もレストランと言うよりは Sport Bar の様な感じであった。

飯を食って落ち着いた後から又宿探しをする。その他も2-3回だったが何処も同じ結果であり、何処か止まれそうな所は無いかと言うと2-3紹介してくれた。一軒目は駄目であったが、2軒目の中心街から少し離れた Blake Hotel は空きがあった。此方には安い高いのとの選択権は無いので、素泊まり190ドルで泊まることにする。部屋は大きく、巨大なベッドがあった。此方で言う King size bed だ。Mammoth size と呼ぶべき大きさだ。

翌日も天気は良い。町を歩くが、何とも生活臭がなく、面白みのない町だ。巨大なビルが何棟建設中だ。この様な町は7州には他にもある。Washington DC や Houston などだ。小さな店や八百屋などが無い町だ。新興の町らしく古い教会などはビル間の谷間で窒息しそうに行んでいる。遊覧バスが市内を走っているがそのコースは全長30程度で面白くも無い。少し中心街を離れると、道幅も広く、街路樹も整った住宅街あり、此方の方が未だ面白さがある。やや古い時代のレガ作りや団地風の住宅がある。歩道が何処も立派で安心して歩ける。

バスは大幅に遅れ5時近くになって Columbia に向けて走る。Columbia で1時間半待つ、Charleston に向かう。暗い中を走り、途中2箇所に停まり、Charleston に着いたのは10時近くになっていた。早速昨朝の男にタクシーを呼んでもらい、予約していた空港に行く。

その後は全て順調で予定通り、8日の18時前に家に着くことが出来た。

100キロマラソンじゃあーなる

5244

997-0826 鶴岡市美原町30-24  
0235(2)3669  
090-2986-7724 携帯



1984年9月15日第1号発行~ 2009年11月18日

虚構の如し、ケタイメール全盛のご時世に貴重な手書きのお便り、有難うございます。其の  
ところ、手作りの黄金街道100キロには手作りの拙いジャーナルが必須と思っ  
て来ましたし、効率の良くない、遅々とした大会運営に賭けていきたいと考  
えています。速やがて記録を担う人たち、自己に哲学の持てる人たちにだけ  
宜しいかと思ひます。来る歳に  
駆けける虎もすが、黄金街道も鈍牛の如く、じっくりと歩んで行きます。

久しぶりにお便り致します。大阪は今週雨が多く、今日は止みましたが冷たい風が、  
このあたり気温が下がり、愈々平野部も錦秋の季節を迎えることになりそうです。

私、十月は上旬に尾瀬ヶ原へ(序でに至仏山へ)、中旬には戸隠山へ出かけ、既に紅葉を  
来りたが、関西は(我が家から近い箕面の境も)「いろはまみじ」の名所が多く、それは山岳部の  
違い鮮やかな紅色を特長とします、紅葉狩に思いを馳せ、わくわくしています。

扱って十一月に入って、一日には「大井川」、八月には「下関海響」と2週、フルを走って来  
「大井川」は第1回大会ですから報告の価値も高いかも知れませんが、私自身の印象が強く、  
白木もあって「下関」の方の完走記を同封します。

「大井川」は天気予報がすっきり晴れ上がりました。降りは大会も終り頃  
島田の所を走る頃から本降りとなりました。レース中、小松裕美さん、川岸完次さんから声がか  
きました。小松さんは早の方を完走してないということですが、着実に足取りです。っ  
きりな。

最後になってしまいました。東京マラソン当選おめでとーございませう。大井川でスタート  
した人は4回連続落選だと言っているから、菊地さんはまだまだ幸運です。私の娘夫婦  
は駄目でした。

一気に冬が来そうです。そろそろ風邪対策をお考え下さい。では、お元気で。

スタートが8:30ヒヤヒヤに早い。制限時間7時間の「しまだ大井川マラソン」でも9:00スタートだ  
た。駐車場がないのでマイカーでは来るなと案内にある。調べてみると夜行のツアバスは小倉に  
6:20着の予定。7:30までの受付に間に合う連絡している。小倉発下関行きの電車の本数は、

僕は昔から、列車でもバスでも夜行は眠れぬことが多い。それはやはり、おで遠足前夜  
の小学生のように、旅先の旅館でも興奮して眠れず朝を迎えることも少なくなかった。どんな  
に疲れていてもである。おかげで眠れない眼をすりこすりしてバスに臨むことも多かった。最近では旅館  
で眠れるようになった。眠れずとも翌日の影響が大したことのないか判り、余り神経質にならな  
くなったからだろう。それでも依然として夜行バスでは眠れない。この夏も4度乗ったが眠れぬ  
のは1度きりだった。

11月8日の朝、夜眠れぬまま小倉駅頭に降り立った。予定より10分早い。ホームに停ま  
る電車に飛び乗る。幸い空気がいい。持参のパンで朝食を摂る。しかし、後山マラソンなどで  
は電車の中で食べている人が結構いるのに、ここ九州では見回したところ誰一人いない。  
会場に着いてから食べるのだから、それよりも早く家で済まして来ているのか。

電車は小倉発下関行きで、途中門司駅があるのみだ。本州側は山陽・山陰両線と  
九州側の鹿児島・日豊両線とをつなぐためだけに運行している。13~14分で下関に到着。  
下関駅は昔の国鉄時代の駅そのままという雰囲気を持っている(門司港駅はビルトロでは  
ないが)。しかし、降り立つホームからは、駅前ビル群とその中に際高く聳立つツワ  
カ眼に入ってくる。そのツワの下がスタート・ゴール会場のようだ。

人の流れに従い、シーモールという駅前の商業施設の2階まで歩き、受付を済ませ  
から主会場たる公園広場へ。これも人の後を追って行く。スタートまではまだ1時間半  
以上あるというのに大層な人混みである。施設も大きく、案内の表示も見落として、人の  
流れの後を追って行ったら迷ってしまった。目指す第1更衣室でなく、第2更衣室に指定  
されている1階の駐車場へ着いた。ブルーシートが適当な間隔をあけて何枚も敷かれて  
いる。これは冬の雨を屋根はあっても戸外同然の場所だ。寒くて堪まらないだろう。幸い  
にもまだ11月上旬。しかも平年よりは気温が高い。すいているので、一番手前の一角に陣取  
り、準備する。そのうちに段々と人が増えて来て、セーターブルーシートのない裸コンクリ  
の面で着替える人連も沢山になった。

スタート1時間後、こんな地下のような所にじっとおぼろぼろと外へ出る。海岸  
に面した通りではウォーキングアッパの人達。空は薄曇り。そして海からは風。今日天気  
は曇りの予報が出ている。

スタート地点のアーチ下の路上にまだランナーの姿はまばらだが、家族や観客の応援  
の応援の数が多くなる。歩道はランナーも含めて人で溢れかえっている。その間を  
縫うように広場へ行く。給水所を探して見つけると、MVA行って用を済ませた後、  
その手洗いの水を飲む。

今日のスタートはDブロックからで、Eまでしかないで可成後方からのスタートとなる。  
申込みの際、目標タイムを4時間半と言った。それはAは3時間以内、Bは3時間半、  
Cは4時間といふところか。全体のレベルが高いだろう。一般男子だけで6000名  
を超えるエントリー数で、のことだから。

今後も  
いのは  
4里を  
さび  
紅葉  
スの面  
私か  
した頂  
れて行  
前に話  
も今年